

ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

ベトレヘムの風

発行：ベトレヘムの園病院 隔月15日発行 編集：広報委員会
住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号 ☎042-491-2525 URL: <http://www.betohp.com>



No.99

『法廷に立たされる院長』

院長 青木 信彦



題名は院長が「医療訴訟で訴えられた」かのように思われるでしょう。院長職が長くなると、危険な事態に追い込まれることも少なくはありません。しかし今回は医療訴訟ではなく、刑事事件の被告弁護側の証人尋問です。

医療に関係する事件では、医学的な見解が裁判の判決を大きく左右します。裁判官は医学の専門家ではありませんので検察側と弁護側の双方の医師を参考人として尋問し判決の判断にします。

検察官と弁護士が激しく応酬するのですが客観的にみていると、まるで官軍と賊軍の戦いのようなのです。

検察官は担当する事件についてある程度の知識はあり、かつ軍資金は潤沢です。一方の弁護士は事件の内容については初心者であり、これから勉強してみますというレベルで、かつ軍資金も貧弱でいわゆる手弁当なみとなっています。

どうみてもはじめから勝敗は目に見えています。その結果、刑事事件では検察側の勝率は99%以上となります。たしかに検察側が負けてばかりいますと世の中の秩序と平和は維持できませんので、当然でしょう。

そんな訳で、刑事事件に協力する医師は少なく、まして負け組の弁護側に立って証言するなどという医師を探し当てるのは至難の技となっています。

そんな中、ここ数年、日本でも「揺さぶられっ子症候群」というのは本当にあるのか、という問題が浮上してきました。親が赤ちゃんを揺さぶって脳に障害を与えるという虐待を揺さぶられっ子症候群（SBS）ということになっています。このSBSは単なる仮説であるという意見と、強い揺さぶり以外で赤ちゃんに脳障害は生じ得ないという意見の対決です。

赤ちゃんの頭部外傷の専門業界では30年前からSBS賛成派と反対派の国際論争となっていますが、日本では遅れば

せながらこの10年程前からです。

日本に独特なのは虐待診断のガイドラインです。ここには「硬膜下血腫+眼底出血=揺さぶられっ子症候群（SBS）」と判断してほぼ間違いなし、と記載されていて多くの医師はこの自動診断で虐待推定としているのです。

この業界に長く関わってきた不肖・老医師は、弱い弁護側には協力医師が皆無という理由で要請を受け、老骨にムチを打って参戦することにしました。ベトレヘムの園病院の理念にある社会福祉事業の一環としてのボランティア活動です。

昨年は各地の法廷に立つこと4回（大阪・岐阜・前橋・立川）でした。検察官の意地悪な質問に顔色も変えずに回答できるのも、これまで沢山の学会発表で打たれ続けて鍛えてきたおかげです。

弁護士のグループは「SBS検証プロジェクト」という戦闘組織を作って検察側に挑戦しています。今、日本の各地でSBS裁判が展開しています。この1年で逆転無罪判決も珍しくなくなり、検察側vs弁護側の戦いはますますヒートアップしてきました。

SBSと呼ばれる赤ちゃんの頭部外傷は家庭内で発生し、日本ではとくに多く、これからも少なくなることはありません。みなさんもご注目ください。SBSを知っていると、みなさんのお孫さんの養育に役立つこともありますよ。



ペトレヘムの園病院 公開健康講座

2月講座

「嚥下について気軽に学んでみよう！」

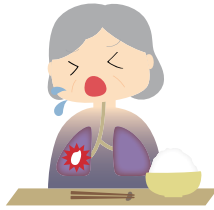
言語聴覚士：常盤 智美・額川 早香江

2020年2月21日(金)に当院会議室で嚥下についての健康公開講座を行いました。

講座はまず、嚥下のメカニズムについて学んでいただき、誤嚥性肺炎のチェックポイントや予防法をご紹介し、誤嚥予防のための体操などを行いました。

次に、嚥下障害の質問紙に答えていただき、嚥下状態のチェックをし、その後、トロミ茶の作り方や、栄養補助食品の紹介を行いました。

そのうちのひとつ、アイソカルゼリーは1個66グラムで150キ



ロカロリー、なんとお粥1杯分に相当します。こちらは一緒にご試食いただき、感想を伺う予定でしたが、お持ち帰りいただいたのご試食となりました。

また、当院の常食、刻み食、ペースト食の比較を写真にてご紹介させていただき、ペースト食は実際に見ていただきました。その場でご試食いただけなかったのは残念でしたが、いろいろや粒のない、なめらかな形態を確認できました。

今回の講座は、コロナウィルス感染対策のため、急遽内容を変更して嚥下食の試食を取り止め、当日参加された方々に入り口での手指消毒やマスク着用などしていただきました。皆様ご協力ありがとうございました。



これはある年のお正月メニューの常食とペースト食です。このように季節感を大切にメニューを提供しています。



ペトレヘムの園病院 公開健康講座

3月講座

「今話題 人生会議ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは？」

1階病棟 副看護師長：百々 明子

これは、患者・家族・医療従事者の話し合いを通じて、患者の価値観を明らかにし、これからの治療やケアの目標や選好を明らかにするプロセスです。つまり、どのような最期を過ごすかは、どのように生きるかと同じである、ということです。

ACPですと、非常に堅苦しいため、私たちが親しみやすいように「人生会議」というキャッチフレーズができました。人生の最終段階にどのような医療、ケアを受けたいか、人によって異なります。

自宅で家族に看取られ最期を迎えたい人・病院で迎えたい人・自宅で迎えたいが家族の負担を考え、病院や施設を考える人、と様々です。

また、人は置かれた環境や健康状態により、医療やケアへの意識や思いは変わり得るものといわれています。

いつから、考えるのか？話し合うのか？明確な時期は決まっていません。そのために、今回は「もしバナゲーム」と「私の生き



方連絡ノート」を紹介します。御家族間や親しい間柄の方と、日頃から気軽に話題にできるといいですね。

東京都慢性期医療協会の事例発表会に参加して

☆今回東京都慢性期医療協会の事例発表に参加しました。発表内容は平成29年度より中心静脈栄養患者の受け入れを開始し、CVカテーテルの入れ替えはしない当院の方針の評価をしたいと思い「療養病院におけるACPを意識したCV挿入患者との関わり」の演題でまとめました。他の慢性期病院でも中心静脈栄養患者が増えている状況の中で、CVカテーテルの入れ替えをしている病院からの質問を期待していましたが、反応は少なく少し寂しかったですが、今後もCV挿入の倫理的課題は考え続けたいと思います。

又全発表30題の内6題がCWさんの発表でした。今回介護士さん2名も一緒に参加し、これからの発表への意欲も高まったようです。看護部で目指している「学習する組織作り」の一環として支援していきたいと思います。発



表後はこの会の運営で頑張ったリハビリ2名も一緒に、井上副院長にご馳走になり楽しい時間を過ごすことができました。この機会に感謝しています。

看護部長：窪田 由佳

☆CVカテーテルを入れた患者様は入院していてルート交換時は、他院で入れ替えをしてまた再挿入すると思っていました。カテーテル熱で抜去することになったご家族の気持ちは承知していても計り知れない事でしょう。私達はこれからも患者様、ご家族様に寄り添ってケアしていく事を大事にしていきたいです。事例発表では介護士、ワーカーも発表していた事に驚き刺激になりました。

2階病棟 介護福祉士：織田 順子

☆私が今回の事例発表で心に残った事は、CVカテーテル挿入に至った家族の思いを知らないスタッフが70%回答し、再挿入しない方向は理念にあっているかわからないの回答が41%であった事です。

今後電子カルテに移行し、情報の収集のあり方がケアワーカーも重要になるので、患者情報(家族の思い含めて)をしっかり把握し、より一層尊厳を大切に、思いに寄り添ったケアを実践していくことが必要だと感じています。

1階病棟 介護福祉士：富田 まさ子

地域公益活動報告

医療相談室

〈ベトカフェ〉

3年目を迎えたベトカフェですが、多くの方々にお越し頂き、笑顔や笑い声の絶えない場となっています。最初は恐る恐る来られた方も、カフェ仲間ができ、他愛のない



話で盛り上がっているのを近くで拝見していると、人が持つ“繋がる力”の強さを感じます。これからも皆様が安心してくつろげる地域のカフェを継続していきたいです。

〈ワークサポート〉

今年度も新たに5名の方との出会いがあり、一緒に作業させて頂き数名の方が社会へと再出発されました。自信につながる笑顔に出会え、支援者がパワーを頂けた一年でした。

〈学習支援 はなみずき〉

開設して2年目。変わらず来てくれる子どもたちも成長を感じる毎日でした。社会事業大学の学生さん子どもたちの目線で、遊びやおしゃべりを取り入れながらかかわりの時間を大事に過ごしました。

ひふの話

その
51

市川 雅子(皮膚科医師)

コロナウイルスと手荒れ

新型コロナウイルス感染症が広がり、花粉症以外の人でもマスクをして、公衆トイレでは手洗いを念入りに行っている人を多く見かけるようになりました。そして職場などでの手指のアルコール消毒も、もはや普通になり、その結果、手荒れが増えています。ただでさえ乾燥するこの時期に、頻回の手洗いとアルコール消毒で皮膚が悲鳴を上げてきています。手荒れしやすい人はハンドクリームをこまめに塗るようにしたり、日中に綿手袋での保護をできる範囲でして下さい。もし、赤みやかゆみがでてきたら皮膚科を受診するか、もしすぐに受診できない場合は市販のステロイド軟膏(クリームより刺激が少ない)を買って

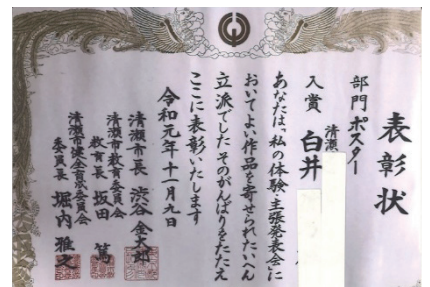


1日5、6回患部に塗って下さい。それで3、4日経っても良くならなければ使用を中止し早めに皮膚科を受診して下さい。なお、手洗いの際、通常の生活では普通の石鹸で十分です。石鹸をよく泡立てて、その界面活性作用でウイルスや菌を洗い流すことができればいいのです。そして、公衆トイレで最近また増えているのがハンドドライヤーです。洗った手を風で乾かす機械です。不十分な手洗いの後の使用だと菌をまき散らす恐れがあるという報告があります。それに濡れた手を風で乾かすことは手荒れをひどくしてしまう恐れもあります(きちんと手を拭かないで空っ風にさらすとアカギレができる、ということと同じです)。手洗いのあとはペーパータオルがあればそれを使う、ハンカチを持ち歩いてそれを使う(ハンカチは複数枚あったほうがいいでしょう)ことをお勧めします。それから、アルコール消毒で気をつけて頂きたいのは、アルコールアレルギーがある人は絶対に使ってはいけませんし、アレルギーがなくても手湿疹やキズがすでにある人は使用しないで下さい。皮膚症状がひどくなります。

ポスター受賞報告 ～看護師白井さんのお子さんのボランティア体験～

昨年の夏休みに、小学5年生の娘が当院でボランティア活動をさせて頂き、それを表現したポスターが清瀬市で表彰されました。

初めて高齢者の方のお世話をしたりお話しをする関わりの中で、いつでも笑顔でいることが大切であることを学び、「人と人をつなげる笑顔」というタイトルをつけました。この貴重な体験を今後も生かして、沢山の人を笑顔にできる女性に成長してほしいです。



1階病棟 看護師：白井 明花

お知らせ

★新型コロナウイルスに関する当院の対応策について

【基本方針】

- ① 入院患者への感染防止を最優先させる
- ② 標準的な外来診療体制を維持していく

- ◇37.5℃以上の発熱者の外来診察は専任医師1名で行ないます
- ◇リハビリは入院と外来の患者さんの動線を分け、別々の部屋で行ないます
- ◇お見舞いは特別の許可がない限り、5分以内とさせていただきます
- ※今後の流行の状況に応じて、適宜見直しを図って参ります

★2020年3月17日(火)に予定していました「ボランティア懇親会」は新型コロナウイルス感染防止対策の一環として中止になりました。ご了承ください。

事務部長：菊池 誠



編集後記

時々患者様が「歳を取って身の周りのこともままならず何のために生きてるのか」と嘆かれる場面に出会います。当院の入院患者様は発語すらできない方が大半です。そのなかでご自分の気持ちを吐露してくださる方は、まさに入院患者様の代表で、大切なご意見番であり、神様から特別な使命を与え

られた方なのだと思うのです。ある方が「では歳取って重大な任務に就いてしまったのだからタイヘンなはずね」と。人生の先輩方の声にもっと謙虚に耳を傾けねばと日々思うのでした。(N. M)